

麦わらぼうし



【撮影：角田市 令和7年7月9日】

アグリテックの活用を推進しています！

農業用ドローンを用いた農薬や肥料の散布は、農作業の労力軽減や省力化に繋がる重要な技術です。近年では、県が整備したRTK基地局に接続可能なドローンを活用することで、自動操舵による散布作業を行うことが可能です。また、追肥作業では、栽培管理支援システムを利用することで、作物の生育や地力に応じた可変施肥が可能となり、肥料代を削減しながら環境負荷軽減を図ることができます。

普及センターでは、農業者の高齢化・減少下での地域農業の維持発展に向け、今後も管内のアグリテック活用を推進し、生産性の高い農業経営の実践を促進してまいります。

令和7年度 普及センター重点課題の取組

1 みどりの食料システム戦略の推進

令和3年に「みどりの食料システム戦略」が策定され、農業分野においては、「化学肥料使用量の20%低減（2030年）」などの目標達成に向けて取り組んでいます。

普及センターでは、管内で生産される豚ふん堆肥の利用や、農業用ドローンの利用による作物の生育や土壌の状態に応じた散布量の調整などの取組について、農業者に対し技術支援を行っています。



【ブロードキャスターによる堆肥散布】

2 アグリテックの導入・活用支援

栽培管理支援システムの活用は、農作業の効率化やヒューマンエラーの低減を図るために有効な手段の一つであり、普及センターでは、システムの導入による経営改善等を支援しています。

今年度は、システムの導入に関する研修会や、生育ステージ予測に基づく技術支援、労働時間短縮などを目指した法人への営農支援を行っています。



【栽培管理支援システム研修会】

3 新たな担い手の確保・育成と女性の活躍支援

現在、管内では23人の認定新規就農者が営農しており、各々の営農ビジョン実現に向けて、栽培管理等に励んでいます。

普及センターは、新規就農サポートチームの一員として、各市町とともに定期的な巡回により営農状況を確認するほか、個別の巡回指導により栽培技術や経営等の課題解決を継続的に支援しています。

今後は、青年農業者や女性農業者を対象とした経営管理講座や、若手農業者を広く集めた交流会を開催する予定です。



【新規就農者の巡回】

4 地域農業の維持・発展に向けた地域及び組織育成支援

管内では「地域計画」の作成や、ほ場整備事業への取組により、地域の担い手の選定と農地の集積・集約化の動きが加速しています。

普及センターでは、ほ場整備事業の担い手が集落の農地を集積し、安定した営農を行うことができるよう、法人化に向けた話し合いや合意形成に向け、助言・指導を行っています。また、設立後間もない農業法人に対しては、法人の経営発展段階に合わせて、省力化技術の導入や組織運営支援など、関係機関や各種専門家の協力のもと、技術・経営の両面で支援を進めています。



【法人設立に向けた話し合い】

5 園芸振興を牽引する重点園芸作物の生産推進

仙南地域の特色ある園芸産地育成を目指し、重点園芸作物として「いちご」「ブロッコリー」「果樹」の生産振興に取り組んでいます。なかでも果樹は、県内最大の産地となっており、近年では日本なしを中心に、多様な形で就農する若手生産者が増加しています。

普及センターでは、樹種や栽培地域の違いを越えて、若手果樹生産者同士のネットワーク構築を目指し、イベントへの共同出展活動やSNSを活用した交流を支援しています。SNSは、かん水など日々の管理作業や加工品の製造に関する情報を共有する場として活用されるほか、栽培管理における苦労や工夫についての情報交換が行われるなど、活発な交流が行われています。



【現地検討会で情報交換を行う若手果樹生産者】

6 耕畜連携の推進

近年、飼料・肥料等生産資材はこれまでに類をみない価格高騰が続いています。この状況に対応するため、飼料用稲などの多収品種に関する技術支援や畜産堆肥の活用を通じた耕畜連携の推進に取り組んでいます。

管内では飼料用稲としてリーフスターの生産が主流でしたが、さらに収量が期待でき、収穫適期が長く、作業分散が期待できる新たな品種「つきことか」の試験栽培に取り組んでいます。また、管内の堆肥利用推進を図るため、土壌分析によりリン酸が不足する水田には豚ふん堆肥散布を提案するほか、管内の特殊肥料生産・販売業者一覧について、ホームページで公開しています。



【「つきことか」湛水直播栽培の苗立本数調査】

7 直売所運営支援

村田町「道の駅村田」と丸森町「丸森物産いちば八雄館」を対象に、販売額向上に向けた取組を支援しています。

「道の駅村田」では、専門家のアドバイスを受け、売り場のレイアウト変更による改装を行った結果、店内が明るくなり、陳列スペースも増加して好評を得ています。

「丸森物産いちば八雄館」では、店舗の改築に伴う来年の新館オープンに向けた店舗コン



【直売所スタッフ研修】

プト見直しとスタッフ研修を行っているほか、町内の伊具高等学校との連携を検討しています。

普及センターでは、今後も直売所に対して生産販売計画の確認や専門家派遣による運営改善支援を行ってまいります。

高収益作物研修会を開催しました

ほ場整備が盛んな当管内における高収益作物への関心の高まりを受け、川崎町のさつまいもほ場と柴田町の加工用トマトほ場で研修会を開催しました。

獣害や病害虫対策などの栽培のポイントやスマート農機の活用、食品企業との契約栽培について生産者やメーカー担当者から説明がありました。当日は農業法人など約60名が参加し、炎天の中、熱心に質問する姿が見られました。



【さつまいもほ場現地検討会】

仙南4Hクラブ研修会を開催しました

仙南農村青少年クラブ連絡協議会(仙南4Hクラブ)は、8月27日に大河原町天然温泉いい湯で、株式会社ヒルズ代表取締役佐藤克美氏を講師に招いて研修会を開催しました。

「青年時代に描いていた経営に対するビジョンについて」と題した講話では、本業の養豚やそれ以外の事業展開に対する苦労話にクラブ員から数多くの質問が出されました。

仙南4Hクラブは、交流を通して学びを求めている会員を募集中で、この研修会にも入会検討中の2名が参加しました。



【仙南4Hクラブ研修会】

仙南水稻栽培塾を開催しました

管内における「ひとめぼれ」「つや姫」「だて正夢」などの県優良品種の高品質・収量安定化に向け、7月15日に「令和7年度仙南水稻栽培塾」を角田市で開催しました。水稻の生育状況や今後の栽培管理のポイントについて説明したほか、「だて正夢」展示ほ場の幼穂長を確認し、追肥時期の判断や出穂期の予想を行いました。

おいしい仙南産のお米を消費者の皆様届けられるよう、今後も生産者とともに生育状況を確認しながら、栽培技術のサポートを図ってまいります。



【仙南水稻栽培塾】

農業士会研修会を開催しました

管内では、外部雇用や事業継承を検討する農業者が増えており、若年層の価値観を理解した人材育成指導の重要性が高まっています。そこで、仙南農業士会では、「農業現場における人材育成・協働的コミュニケーション」をテーマに研修会を行いました。

伴走型の人材育成指導の必要性や、フォローアップの考え方等について講義を受け、若手人材が離職するポイントと原因について活発に意見交換を行う等、充実した研修会となりました。



【仙南農業士会研修会】

発行：宮城県大河原農業改良普及センター

〒989-1243 宮城県柴田郡大河原町字南129番1号(宮城県大河原合同庁舎内)
 電話 0224-53-3519 FAX 0224-53-3138
 e-mail oknokai@pref.miyagi.lg.jp
 H P <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ok-nokai/>

